

令和3年度学校評価表

栃木県立那須清峰高等学校

教 育 目 標		SpecialistとしてのSpirit・Sense・Mannerを有する技術者の養成		
本年度の努力点		(1) 学習環境を整えるとともに、学習習慣を定着させ、生徒の学力向上に努める。 (2) 基本的な生活習慣を確立させ、相手を思いやる豊かな人間性の育成に努める。 (3) 各部・各科・各教科の特色を発揮し、地域から信頼される学校づくりに努める。 (4) 部活動など特別活動を充実させ、健全な心身の育成に努める。 (5) キャリア教育の視点を踏まえた体系的な進路指導の充実に努める。		
評 価 基 準		十分満足できる・・・A 概ね満足できる・・・B 努力を要する・・・C 一層努力を要する・・・D		
評 価 項 目		①学校運営 ②学習指導 ③生徒指導 ④進路指導 ⑤特別活動 ⑥読書指導 ⑦健康指導 ⑧施設設備の安全管理 ⑨家庭地域との連携 ⑩情報化推進 ⑪工業教育 ⑫商業教育		
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 取 組	評価	次年度の課題とその対応策
学習指導 ② (学習指導部)	1 真剣に授業に取り組む態度を育成し、基礎学力の定着を図る。	1 「チャイムtoチャイム」の実践により、時間を守って積極的に授業に参加する態度を育成する。 ○学校評価（生徒・職員）において「授業準備をし、始業チャイムのときには着席している」の回答が、 A；90%以上 B；85%以上 C；80%以上 D；80%未満	B	①大いにそう思う ②そう思う での評価アンケート結果が ① ② 計 生徒 31.8% 51.6% 83.3% 職員 34.5% 56.9% 91.4% で、先生が来ている生徒の約1/6が未着席を鑑み、評価Bとした。 更なる生徒への意識向上を啓発し、授業指導濃度が高く習熟を保証できる学習環境を確保していきたい。
	2 学習意欲をかきたて、自ら学習する態度や習慣を育てる。	2 家庭での学習習慣の形成の定着を図り、定期試験に臨む意欲や意識を高め、1・2学期末の欠点数を減少させる。 ○1・2学期末の欠点数が総数の A；1%未満 B；3%未満 C；5%未満 D；5%以上	B	欠点数 1学期 2学期 計 1年 23 90 113 2年 55 90 146 3年 6 30 36 $295 \div 16194 \approx 0.0182 = 1.8\%$ となるため、評価Bとした。 2学期に学習成果の改善が必要な生徒が1学期に加え増える傾向にあるため、学習取組を促したい。
工業教育 ⑪ 商業教育 ⑫ (専門部)	3 生徒が所属する学科の基礎的・基本的な学習内容を確実に身に付けさせる。	3 専門性を高めるための資格に対して、取得のために真剣に取り組む姿勢および家庭学習の習慣化を図るなど、主体的な学習態度を育成する。 (技能検定、情報技術検定、測量士補、2級施工管理技術検定、第二種電気工事士、パソコン利用技術検定、全商協会検定1級3種目以上等) ○検定や資格の取得率が A；前年より20%以上向上した B；前年と同様であった C；前年より20%程度低下した D；前年より30%以上低下した	A	今年度は新型コロナウイルス感染症対策で授業削減もなく、また、資格試験の中止もなかったもので、昨年度に比べるとかなり向上した。 次年度に向け更に早めの計画を進めていきたい。
	4 各種大会や上級資格に積極的な取り組みをさせる。	4 各種大会での上位入賞や上級資格取得のため、地域産業界の人材を活用する。 ○地域産業界の人材活用が A；前年より増加した B；前年と同様であった C；前年より低下した D；まったく活用できなかった	A	各種大会の結果は例年と変化は見られなかったが、資格試験に関しては特に技能検定2級への合格が4名と昨年度に比べると増加した。次年度は各種大会への入賞を目標に頑張らせたい。

評価項目	重点目標	具体的取組	評価	次年度の課題とその対応策
	5 キャリア教育を充実し、地域社会の発展に寄与できる人材を育成する。	5 インターンシップ事業やキャリア形成支援事業等をとおして、社会人としてのマナーと主体性、実行力、コミュニケーション能力の向上を図る。 ○生徒アンケートの「社会人として必要なマナーや能力」に関して、「あてはまる」「だいたいあてはまる」が、 A ; 90%以上 B ; 85%以上 C ; 80%以上 D ; 80%未満	C	新型コロナ感染症対策のため、計画していたインターンシップは実施できなかったが、キャリア形成支援事業や建設工学科の現場実習などは実施することができ若干向上が図れた。次年度は、是非完全実施ができればと考える。
読書指導 ⑥ (学習指導部 図書管理係)	6 図書館及び図書利用の活発化を図る。	6 図書委員会で「図書館だより」を発行するなど、広報活動を充実させ、図書館利用の推進を図る。 A ; 図書館利用の生徒・教科・クラスが昨年より多くなった。 B ; 図書館利用の生徒・教科・クラスが昨年と同程度であった。 C ; 図書館利用の生徒・教科・クラスが昨年よりやや減少した。 D ; 図書館利用の生徒・教科・クラスが昨年より大幅に減少した。	B	貸出数に昨年度と大きな変化はなかった。図書館を利用するのは特定の生徒が多いため、来年度は図書館オリエンテーションに工夫するなどして、もっと多くの生徒に興味、関心を持って図書館に来館してもらいたい。
情報化推進 ⑩ (教務部 スキルアップ係)	7 情報機器を活用した授業の推進を図る。	7 教職員対象のスキルアップ研修を計画し、実施する。 A ; 年間6回以上実施した。 B ; 年間4回以上実施した。 C ; 年間2回以上実施した。 D ; 年間1回以下実施した。	B	新型コロナ感染症対策として、各教室で講演会や行事に参加できるように係職員による講習を実施した。多くの先生方に参加していただき、有意義であったと考える。
生活指導 ③ (生徒指導部)	8 学校生活への適応と基本的生活習慣の確立のため指導の充実に努める。	8 教師が率先して挨拶を行い、生徒が学校生活の多くの場面で積極的に挨拶ができるように指導する。 ○生徒アンケート「言葉遣いや礼儀などマナーの定着度」に関する結果から「あてはまる」「だいたいあてはまる」が A ; 90%以上 B ; 85%以上 C ; 80%以上 D ; 80%未満	A	生徒の回答は、A判定であったが、保護者・教員の回答はB判定となった。 保護者・教員とも、「全く思わない」の回答は0%であるため、家庭や学校でマナーに関する話題を多く取り入れてもらえるように工夫したい。
	9 交通安全教育の充実及び指導強化を図る。	9 HR活動・特別活動を通じて交通安全教育を実施し、交通マナーの向上を目指す。 重大な交通事故発生件数が昨年度より A ; 大幅に減少した B ; 多少減少した C ; 同程度だった D ; 増加した	B	重大な交通事故はなかったが、交通規則を再確認させ、譲り合いの精神で交通マナーの向上を意識させたい。
健康指導 ⑦ (学校安全部 健康指導係)	10 自己の健康状態に関心を持ち、自ら適正な健康管理ができる姿勢を育む。	10 保健室利用者への個別指導および教科での安全な活動を行うための指導を充実させ、個々の怪我の防止に努め、生徒の自己管理能力を高める。 自己管理の意識が向上し、保健室利用者数(外科)が昨年より A ; 大幅に減少した(-15%以上) B ; 多少減少した(-10%以上) C ; 同程度だった D ; 増加した(+10%以上)	C	R2.6~12月の期間で214件の外科対応を行った。今年度は同じ期間で245件の来室があり、昨年と比較して1.14倍となった。 受診すべきケガも放置してしまう生徒もいるので、適切に医療機関につなげていきたい。

評価項目	重点目標	具体的取組	評価	次年度の課題とその対応策
施設設備の安全管理 ⑧ (学校安全部 施設備品係)	11 省エネルギーを 実践する姿勢を 育成し、職員・ 生徒の主体的省 エネ行動を推進 する。	11 不要な照明の消灯、冷暖房温度の適 正維持等を職員、生徒が実践すること により、消費電力を削減する。 昨年度の消費電力量より A；1.0%未満削減できた。 B；現状を維持することができた。 C；+1.0%以上増加した。 D；大幅に増加した。	B	今年度は、0.5%程度 の電力を削減するこ うができた。次年度は、 6月、7月の節電を多 くする目標にしたい。
進路指導 ④ (進路指導部)	12 組織的な進路指 導を推進し、生 徒一人一人の望 ましい勤労観・ 職業観を育成す るとともに、主 体的な進路選択 のための指導・ 援助に努める。	12 進路指導部・各担任・各学科・各教 科等が連携し、個別指導を重視した進路 指導に取り組む。 A；連携した指導及び個別指導を重視し た指導に取り組み、希望進路実現率 (第一希望)が90%以上であった。 B；進路実現率85%以上であった。 C；進路実現率80%以上であった。 D；進路実現率が80%未満であった。	B	今年度の初回の入社 試験の合格率は、88.2 %であった。欠席が多 い生徒や、面接試験に おける 意思表示の弱い 生徒に内定がみられな かった。普段からの生 活習慣や自己表現力指 導に尽力したい。
特別活動 ⑤ (特別活動部)	13 部活動の加入・ 定着を促し活性 化に努める。	13 部活動を知・徳・体のバランスのと れた「生きる力」を育むための重要な機 会ととらえ、部活動紹介や広報活動など を活発にし、定着率のアップを図る。 A；1年生の年度末に、部活動定着率が7 割以上 B；定着率6割以上 C；定着率5割以上 D；定着率5割未満	A	1年生の12月の部活 動加入率は91.8%です (うち運動部加入率は 42.6%)。 2年生の運動部加入 率は40.0%です。 運動部の加入率をア ップさせたい。
学校運営 ① (教務部)	14 授業と行事の総 合的バランスを とることに努め る。	14 学習指導部、特別活動部と連携し年 間行事予定と特活・LHRの調整を図 り、授業時数の均等化に努める。 A；授業時数の均等化が図れた。 B；2/3の学期で均等化が図れた。 C；2/3の学期で均等化が図れなかった。 D；全学期で均等化が図れなかった。	A	コロナ禍によって何 度も行事変更を行い、 その都度授業時数の調 整を行った。 来年度も同様の対応 をしていきたい。
学校運営 ① (学年部)	15 学年間の連携強 化に努める。	15 学年間の連携を密にし、学年間の共 通理解を図る。 A；随時、学年主任間で連携し、十分共 通理解が図れた。 B；学期ごとに、学年主任間で打合せを 行い、共通理解が図れた。 C；年間を通して、学年主任間で数回打 合せを行い、共通理解が図れた。 D；学年間の共通理解が不十分であった。	A	コロナ禍によって、 学校行事を予定通り実 施することが難しかった。 都度、学年間だけ でなく関係部署と実施 内容や時期の検討、代 替行事の計画を行う必 要があると考えられる。
家庭地域と の連携 ⑨ (渉外部)	16 P T Aとの連 携を強化し、P T A活動の活性 化に努める。	16 P T A各行事の運営について改善を 図り、保護者の参加率を高める。 A；大幅に増加した。 B；やや増加した。 C；変わらなかった。 D；減少した。	C	昨年度に引き続き、 ほとんどの事業が中止 となった。これを機会 に、P T A活動のあり 方について検討し、事 業内容の改善を図っ ていきたい。
いじめ防止 対策 ③ (生徒指導部)	17 いじめの早期 発見、いじめの 再発を防止する ための取組を強 化する。	17 生徒との面談やアンケートを通して いじめの早期発見や解決を図る。 A；各機関と連携を図り十分に対応がで きた。 B；各機関と連携を図り対応ができた。 C；概ね対応ができたが、継続指導中。 D；十分な対応ができなかった。	A	学期に一度のアンケート を実施することができた。 集計、予備調査の実施、 対応委員会の実施・検討 を一つの流れとして早期発 見と解決を図っていき たい。